

報告事項

- 乗車実績等
- 安全性向上への取組み

R3年4月～12月まで乗車実績（速報値）

単位 千人

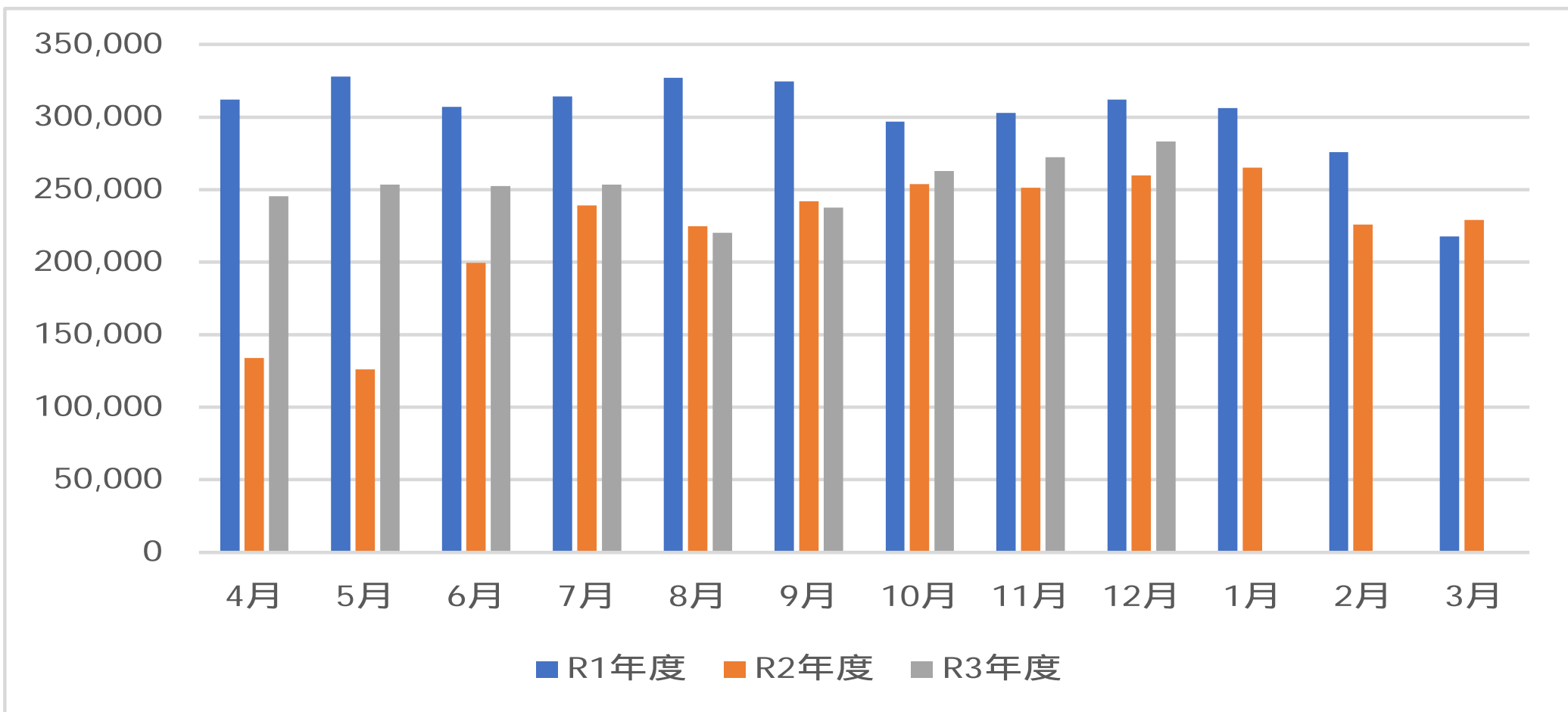
	R3年4月～12月	R1年4月～12月	減少数
自社線 (勝永線、三芦線合計)	2,171	2,704	533
フェニックス田原町 ライン (福井鉄道連絡運輸)	109	121	12
合計	2,280	2,825	545 (- 19.1%)

R3年4月～12月まで乗車実績とR1年同期減少率

	券種	実績数(千人)	R1年同期減少率
日常	通学定期	869	- 4.7%
	通勤定期	556	- 4.1%
	回数券	266	- 13.1%
非日常(連絡運輸含む)		588	- 42.7%

乗車実績の推移（R1～R3）

単位：人



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R1年度	312,175	327,850	306,882	314,268	327,036	324,559	297,058	303,034	312,174	306,296	275,715	217,779	3,624,826
R2年度	133,981	126,140	199,591	239,191	224,896	241,967	253,808	251,271	259,768	265,189	226,000	229,024	2,650,826
R3年度	245,340	253,541	252,356	253,563	220,094	237,457	262,739	272,192	282,988				2,280,270

R3年12月乗車実績は速報値

大規模災害に対する対応

- R3年3月2日
小舟渡駅付近において土砂災害発生
- 同日15時から代行バスを運行
- 4月6日に仮復旧完了・運転再開
- 今年度末以降に本復旧にかかる予定



安全性向上への取り組み：鉄道テロ

- 8月に小田急線、10月には京王線での電車で乗客が無差別に狙われる事件が相次いで発生していることを受け、教育・訓練を実施



「持ち込み禁止品」の掲示



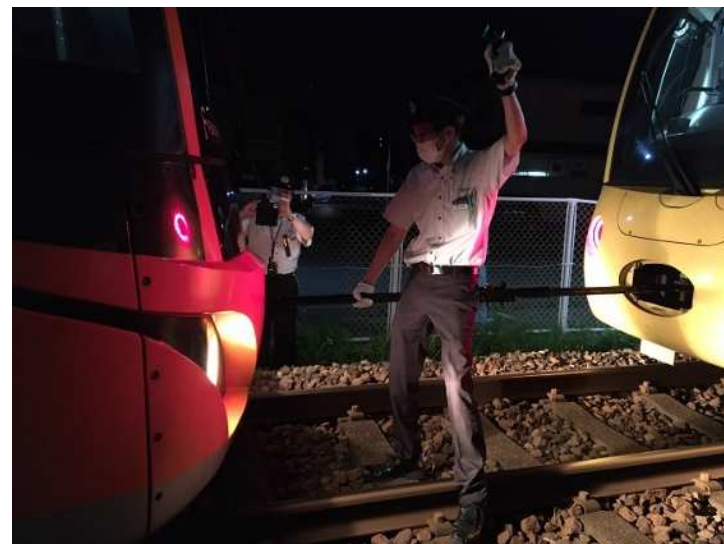
福井警察署との図上訓練



「電車内での護身術教養」

安全性向上への取り組み：社員教育

- 福井鉄道と田原町駅構内において異常時を想定した合同訓練を実施



- 視覚障がい者の駅構内や電車への乗降方法について講師を招き講習を実施



安全性向上への取り組み：踏切

- 交通安全月間での一斉活動日に交通量の多い踏切にて啓発活動を実施
- 交通規制の設けられている踏切道において注意喚起板を設置



国への要望の実施について

1 要望の経緯

えちぜん鉄道は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい経営状況となっているが、令和3年度の当初予算では、鉄道の安心・安全な運行に不可欠な車両関係の大規模修繕(車両検査・車両修繕)費用について、国費が補助されなかった。

また、令和3年1月の大雪にかかる除雪や、同年3月にえちぜん鉄道小舟渡駅で起こった土砂災害の影響による代行バスなどに多額の経費がかかったが、このような経費は、国の補助制度の対象外となっている。

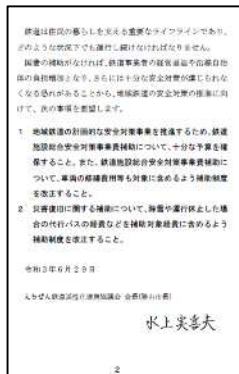
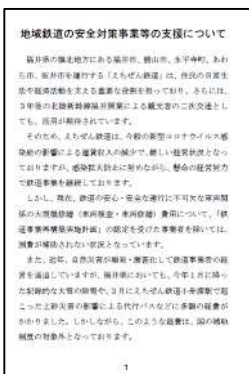
そのため、えちぜん鉄道活性化連携協議会及び福井鉄道福武線活性化連携協議会から国土交通省等に対して、要望を実施した。

2 要望日及び要望先

- ・令和3年6月29日 国土交通省中部運輸局
- ・令和3年7月7日 国土交通省、福井県選出国會議員

3 要望事項

- ・地域鉄道の計画的な安全対策事業を推進するため、鉄道施設総合安全対策事業費補助について、十分な予算を確保すること。また、鉄道施設総合安全対策事業費補助について、車両の修繕費用等も対象に含めるよう補助制度を改正すること。
- ・災害復旧に関する補助について、除雪や運行休止した場合の代行バスの経費などを補助対象経費に含めるよう補助制度を改正すること。



えちぜん鉄道 第3次支援スキームについて

1 支援の経緯

- ・「えちぜん鉄道公共交通活性化総合連携計画」(平成24年3月策定)において、今後はえちぜん鉄道が民間活力を最大限に活かして、鉄道経営者としての自立性を高めることを目指すものとし、県及び沿線市町は必要な支援を行うこととした。
- ・第2次支援スキーム(平成24年度～令和3年度)では、県が「安全な鉄道運行に必要な設備投資」と「鉄道運行に必要な資産取得等」を支援し、沿線市町が「社会資本の維持に必要な経費(維持修繕費等)」を支援した。
- ・えちぜん鉄道の利用者は、沿線市町の人口が減少する中であっても、企業努力及び県、沿線市町の利用促進等により、324万人(平成24年度)から369万人(平成30年度)まで増加し、地域住民の生活に不可欠な公共交通機関となっている。
- ・そのため、令和4年度以降の支援の必要性について、えちぜん鉄道・県・沿線市町で協議を行った結果、安全安心な運行を継続するためには、設備の老朽化対策等に引き続き県及び沿線市町の支援が必要との結論に至った。

第2次支援スキーム(平成24年度～令和3年度)

	事業費	国	県	沿線市町
設備投資	22.5億円	7.6億円	14.9億円	—
資産取得	13.3億円	—	13.3億円	—
維持修繕等	21.2億円	—	—	21.2億円
合計	57.0億円	7.6億円	28.2億円	21.2億円

2 第3次支援スキームの期間

- ・令和3年度に策定する「えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画」の計画期間に合わせて、令和4年度から令和8年度までの5年間とする。

3 第3次支援スキームの支援額

- ・県は引き続き、「安全な鉄道運行に必要な設備投資」と「鉄道運行に必要な資産取得等」を支援する。
- ・沿線市町は引き続き、「社会資本の維持に必要な経費(維持修繕費等)」を支援するとともに、大雪や土砂災害等の自然災害により、除雪費や代行バス費等の特別な費用が発生した場合には、「災害費」を必要に応じて支援する。

第3次支援スキーム(令和4年度～令和8年度)

	事業費	国	県	沿線市町
設備投資	20.6億円	6.9億円	13.7億円	—
資産取得	0.1億円	—	0.1億円	—
維持修繕等 (災害費含む)	15.0億円	—	—	15.0億円
合計	35.7億円	6.9億円	13.8億円	15.0億円

安全な鉄道運行に必要な設備投資に対する支援(県): 13.7億円

- ・安全性の向上はもとより安定的な運行のための設備投資を支援
(軌道の整備、電線路の更新、斜面对策、除雪車の更新等)

鉄道運行に必要な資産取得等に対する支援(県): 0.1億円

- ・えちぜん鉄道の運行に不可欠な土地等の賃借料を支援

社会資本の維持に必要な経費(維持修繕費等)に対する支援(沿線市町): 15億円

- ・維持修繕に関する費用及び固定資産税額を支援
- ・大雪や災害等による臨時的な経費を支援(除雪費や代行バス等)

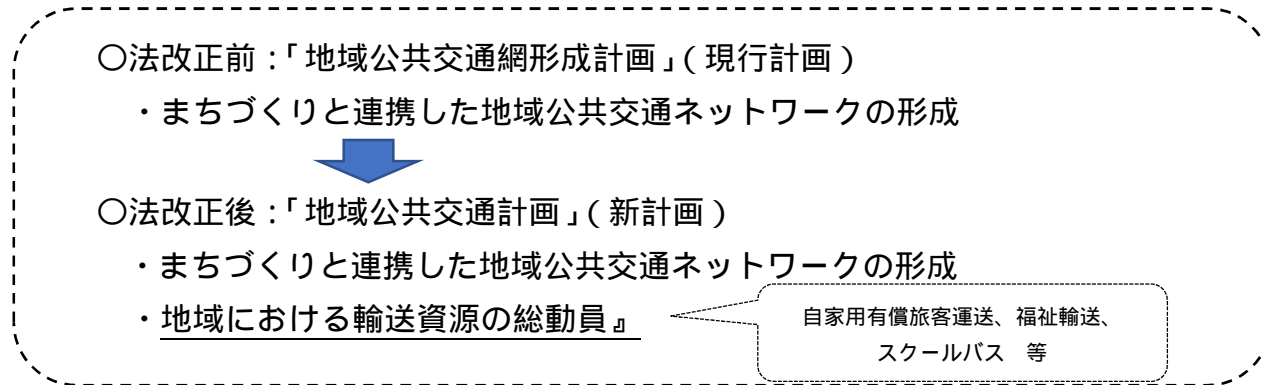
1 計画策定の背景

(1) 計画期間の満了

- ・現行計画である「えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画」の計画期間が平成27年度～令和3年度（7年間）となっており、令和3年度で計画期間が満了となる。

(2) 地域公共交通活性化再生法の改正（令和2年11月施行）

- ・令和2年に「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が改正され、現行の「地域公共交通網形成計画」に代わる新たな法定計画として「地域公共交通計画」を策定する必要がある。



2 策定体制

(1) えちぜん鉄道活性化連携協議会

沿線市町首長、学識経験者、交通事業者、サポート団体、NPO法人、商工会議所、関係行政機関 等

(2) 計画策定作業部会

沿線市町担当課長、学識経験者、交通事業者、サポート団体、関係行政機関

(3) 勉強会

県・沿線市町担当者、えちぜん鉄道

日程	会議名称等	主な協議事項等
令和3年7月26日（月）	第1回計画策定作業部会	・地域公共交通計画策定の概要 ・現行計画の評価、検証 ・アンケート調査
令和3年9月29日（水）	第2回計画策定作業部会	・基本方針、目標、重点施策の検討 ・アンケート調査の結果
令和3年11月25日（木）	第3回計画策定作業部会	・計画全般
令和3年12月27日（月） ～令和4年1月11日（火）	パブリックコメント	・計画(素案)
令和4年2月3日（木）	第1回えちぜん鉄道活性化連携協議会	・計画(案)

3 現行計画の評価・検証

現行計画においては、目指すべき公共交通の将来像である「車と比べても『選ばれる移動手段』になる」の実現に向けて、4つの目標を設定し、A～Kの個別施策（55施策）を記載しました。

55施策の内、45施策が「実施済」、10施策が「一部実施」となり、すべての施策を実施しました。「一部実施」の施策の中で、『G 駅を核としたまちづくり』の「駅周辺への都市機能集約」、「駅周辺への土地利用誘導」、「既存公共施設の利活用推進」については、沿線市町のまちづくりの方向性に影響されるため、引き続き、沿線市町による『コンパクト・プラス・ネットワーク』の考えに基づくまちづくりの推進が求められます。

施策実施状況の概要

目標と取り組むべき施策	主な施策の実施状況
目標1 地域の交通として利用しなくなる公共交通の実現	
A 利用環境の向上	・駅施設（駅舎改修、パーク＆ライド駐車場等）の改善及び新駅（まつもと町屋駅）の設置
B 駅やバス停へのアクセス向上	・バスナビの導入、バスロケーションシステムの増設、駅に接続するバスのルートの変更やダイヤ変更
C 交通機関の乗り継ぎ利便性向上	・福井鉄道との相互乗入れ、福井駅西口交通広場整備、JRとの接続確保のためのダイヤ改正
目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現	
D 安心・安全を支える鉄道施設づくり	・鉄道施設の設備投資、維持修繕
E 信頼できる運行を支える鉄道施設づくり	・福井駅付近連続立体交差事業による福井駅周辺の高架化
F バス路線の維持	・バス路線を維持するため、自治体によるバス事業者への運行補助
目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現	
G 駅を核としたまちづくり	・駅周辺への人口集約・都市施設の立地のための立地適正化計画の策定及び支援事業の実施
H 観光・地域活性化施策との連携	・えちぜん鉄道の駅と観光地を接続する企画列車、企画バスの運行
I 情報発信の連携・強化	・えちぜん鉄道及び沿線市町による沿線の観光・地域・行政情報の発信
目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現	
J 乗る運動・利用促進	・沿線市町による利用促進、カー・セーブ運動、カーフリーデーの開催
K 地域住民との連携	・サポート団体によるイベント・ツアーの開催

4 現行計画の主な実施施策

目標1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現



三国駅の駅舎改修



越前島橋駅 P&R 駐車場整備



まつもと町屋駅の新設



京福バス バスナビ



三国まち歩きサイン



福井鉄道との相互乗入の実施



福井駅の駅舎改修



福井駅西口広場の整備

目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現



大関駅構内マクラギ更换



橋梁架け換え



小舟渡駅付近法面補強



福井駅 - 福井口駅間の高架化

目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現



田原町ミュージアム (田原町駅)



まちカフェ (勝山駅)



きょうりゅう電車



永平寺ライナー

目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現



えちぜん鉄道15周年記念イベント



カーフリーデー



ピア電



サポート会総会

5 現行計画の目標達成状況

現行計画では、12の評価指標を設定し、目標達成に向けて各種施策・事業を実施しました。施策・事業の評価を、現行計画の最終年度である令和3年度と新型コロナウイルス感染症拡大前の平成30年度の2つの値で行った結果、目標を達成した指標は6指標でした。

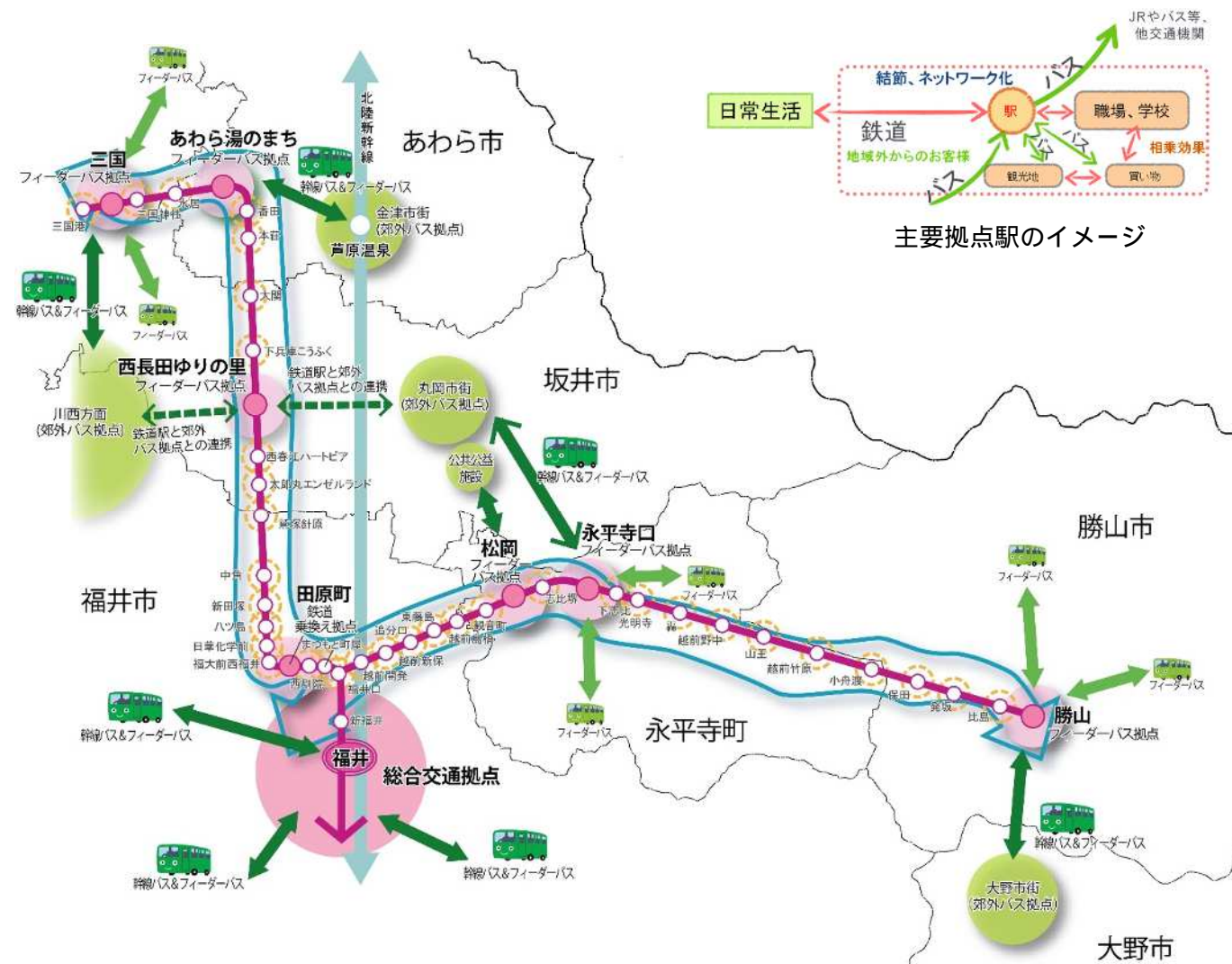
評価指標	基準値 (H27)	目標値 (R27)	現況値:H30値 (R2又はR3値)	評価	備考
目指すべき公共交通の将来像の					
1 公共交通の利用者数	743万人/年	748万人/年	783万人/年 (547万人/年)	達成	えちぜん鉄道利用者数が堅調に増加し、H27～H30は目標を上回る
目標1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現					
2 新駅の利用者数	-	60,000人/年	39,125人/年 (30,252人/年)	未達成	隣接駅である福井口からの転換利用者数が想定を下回ったことなどから目標の7割弱に留まる
3 相互乗入れによる利用者数	31,496人/年 (連絡乗車券利用者数)	153,000人/年	157,998人/年 (120,277人/年)	達成	沿線の高校への通学定期利用者が増加した
4 えちぜん鉄道利用者の満足度	65%	85%	70.4% (R3)	未達成	前回計画策定時を上回ったものの、目標を下回る
目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現					
5 交通事故の減少数	1,529件/年	1,376件/年	907件/年 (552件/年)	達成	経年的な減少傾向にあって件数は半減し、目標を達成
6 故障等部内原因による鉄道の遅延障害件数	2件/年	0件/年	4件/年 (8件/年)	未達成	電気施設や車両による障害要因が増加
車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現					
7 鉄道とバスが接続する主要拠点駅周辺(半径500m圏域)の人口	16,777人	16,777人	15,519人 (R3)	未達成	交通圏全体での人口減少率を上回る約7%減少
8 鉄道とバスが接続する主要拠点駅周辺(半径100m圏域)の生活利便施設の立地件数	44施設	44施設以上	42施設 (R3)	未達成	施設数は概ね同数だが、新設(更新)と閉店があった
9 レンタサイクルの利用者数	14,000人/年	16,800人/年	13,098人/年 (8,233人/年)	未達成	概ね横ばいで推移し、令和2年度に大幅に減少
10 企画列車・企画バスの合計本数	13本/年	15本/年	20本/年 (7本/年)	達成	えちぜん鉄道、京福バスによるもので、観光施設と連携した路線を運行
目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現					
11 サポート会等の市民活動の活動回数	45回/年	50回/年	50回/年以上	達成	駅の清掃や花壇の維持管理等、自主的に実施いただく活動が増加
12 鉄道を使った遠足利用者数(団体数)	146団体/年	146団体/年	165団体/年 (47団体/年)	達成	平成30年度には利用団体数が目標を上回る

6 新たな計画（えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画）の概要

(1) 計画期間 令和4年度から令和8年度まで（5年間）

(2) 基本方針

えちぜん鉄道交通圏の成り立ちや社会基盤整備の状況を十分に踏まえ、沿線都市の地域拠点(核)をえちぜん鉄道で結ぶ「多核連携によるネットワーク型のコンパクトシティ」により、移動の利便性が高く、クルマに頼り過ぎなくても暮らしやすいまちづくりや、周遊性の高い魅力ある広域観光のまちづくりを目指します。



拠点化とネットワーク化のイメージ

(3) 目指すべき公共交通の将来像と将来像実現のための4つの目標

えちぜん鉄道を幹線交通として、路線バスやコミュニティバス等との連携による地域公共交通のネットワークの強化によって、移動の利便性が高く、車に頼り過ぎなくても暮らしやすいまちづくりや、周遊性の高い魅力ある広域観光のまちづくりを目指します。

目指すべき公共交通の将来像 「車と比べても『選ばれる移動手段』になる」

- 目標1 地域の交通として利用しなくなる公共交通の実現
- 目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現
- 目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現
- 目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現

(4) 目標達成のための施策体系

目標1 地域の交通として利用しなくなる公共交通の実現

利用環境の向上	駅施設の整備改善、新しい生活様式への対応、運賃支払いの効率化（キャッシュレス化、Ma a S導入）
駅やバス停へのアクセス向上	フィーダー交通の整備・充実、持続可能な運送サービスの提供
交通機関の乗り継ぎ利便性向上	列車運行の改善

目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現

安心・安全を支える鉄道施設づくり	鉄道施設の維持、大規模災害への対応、経営強化に向けた取り組み
信頼できる運行を支える鉄道施設づくり	大雪に備えた除雪体制の構築
バス路線の維持	バス路線維持への行政支援

目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現

駅を核としたまちづくり	駅周辺への都市機能集約、駅周辺の土地利用誘導
観光・地域活性化施策との連携	観光列車の導入、県外観光客の利用促進
情報発信の連携・強化	駅・車内での観光情報発信

目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現

乗る運動・利用促進	自治体による利用促進、沿線事業所への利用働きかけ
地域住民との連携	サポータークラブの強化、地域とのネットワークの構築

1 地域の交通として利用しなくなる公共交通

施策のポイント		実施項目	実施内容等	実施主体	4	5	6	7	8
A 利用環境の向上									
修正	1	駅施設の整備改善	トイレ整備	えちぜん鉄道・沿線全市町					
			ホーム・構内の整備、改善						
			待合環境の整備						
			付帯施設の整備 駅舎の再整備等						
新	2	新しい生活様式への対応	感染対策の徹底	えちぜん鉄道・バス事業者					
			車両や待合施設の換気や消毒等						
新	3	運賃支払いの効率化	キャッシュレス化、MaaSの導入	えちぜん鉄道・福井県・沿線全市町・バス事業者					
新	4	ラッシュ時の多客対応	ロングシート車両の導入検討	既存車両の改修又は中古車両の購入を検討	えちぜん鉄道・福井県				
B 駅やバス停へのアクセス向上									
修正	5	周辺道路等の改善	除雪・排雪体制の配備	P&R駐車場の除雪、並行道路の除雪、交差道路の除排雪の調整	沿線全市町・福井県・えちぜん鉄道				
修正	6	web等での情報発信	公共交通情報の動的データ整備	Googleマップなど経路検索サイトのデータ提供	バス事業者・沿線全市町・福井県				
	7	フィーダー交通の整備・充実	コミュニティバスの機能確保とサービスの向上	ダイヤ調整等による接続改善、ルート見直し	沿線全市町				
	8	サインの充実	三国駅への誘導、観光地への誘導サイン等の充実	誘導サイン、案内サイン、解説サイン等を新幹線福井開業に向けて整備	坂井市				
新	9	身近な交通手段の確保	自動運転車両等の研究	自動運転車両等の導入を見据えた継続的な調査・研究	沿線全市町・福井県・バス事業者				
新	10	持続可能な運送サービスの提供	従来の公共交通サービスに加え、多様な輸送資源の活用検討	自家用有償旅客運送、福祉輸送、スクールバス等の活用を検討	沿線全市町				
C 交通機関の乗り継ぎ利便性向上									
	11	列車運行の改善	運行時間帯、JRダイヤ改正時における接続確保 所要時間の改善	始発・終発時刻の改善、快速列車の運行等	えちぜん鉄道				

2 安全・安心に利用できる公共交通

D 安心・安全を支える鉄道施設づくり									
修正	12	早期の抜本的対策が必要な設備投資	設備投資	軌道整備、橋梁整備、法面整備、電気・信号設備更新、除雪車更新	えちぜん鉄道・福井県				
	13	鉄道施設の維持	維持修繕	線路・電路設備の維持修繕等	えちぜん鉄道・沿線全市町				
新	14	大規模災害への対応	大規模災害時の経営支援	災害時の代行バス費用等の補助	えちぜん鉄道・沿線全市町				
新	15	経営強化に向けた取組み	並行在来線や福井鉄道との事業連携	資材等の共同調達、工事の一括発注、合同イベントの開催、グッズの共同販売	並行在来線・福井鉄道・えちぜん鉄道				
新	16	鉄道事業における人材確保の取組み (バス、タクシー事業含む)	就職合同説明会、運転体験、採用説明会の実施、移住支援や就職支援の事業との連携	鉄道3社による就職合同説明会やバス・タクシー事業者による運転体験、採用説明会の実施等	並行在来線・えちぜん鉄道・福井県・沿線全市町				
E 信頼できる運行を支える鉄道施設づくり									
新	17	大雪に備えた除雪体制の構築	県・市町と連携した除雪体制の構築	大雪時の優先除雪計画の策定	えちぜん鉄道・福井県・沿線全市町				
F バス路線の維持									
	18	バス路線維持への行政支援	公共交通を維持するための支援	欠損額に対する補助	福井県・沿線全市町				

3 車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通

G 駅を核としたまちづくり									
	19	駅周辺への都市機能集約	駅周辺の各種都市機能の立地を促進	病院、学校、商業施設、金融機関等の立地促進	沿線全市町				
	20	駅周辺の土地利用誘導	駅周辺に良好な市街地形成を誘導	住宅地・事業用地の形成を誘導	沿線全市町				
	21	既存公共施設の利活用推進	既存施設の活用	駅周辺に立地する公共施設の活用推進	沿線全市町・福井県				
	22		既存施設の複合化	行政出先機関の統廃合時には、駅周辺にある施設への移転・集約を検討	沿線全市町・福井県				
	23	サービス供給の拠点化	サービスセンター、児童館、保育園、高齢者日帰りサービス等	新設や移転時には駅周辺への配置を検討	沿線全市町・福井県				
	24	駅周辺施設の整備	駅を含めたエリア全体での観光資源拡充	三国駅周辺における歩道等の整備	坂井市				
修正	25	交流施設としての駅の活用	観光客や市民が喫茶を楽しみながら集える交流施設の運営 不動産開発による地域拠点づくり	勝山駅でのえち鉄カフェの運営 福大前西福井駅ビルの活用検討	えちぜん鉄道				

施策のポイント		実施項目	実施内容等	実施主体	4	5	6	7	8
H 観光・地域活性化施策との連携									
	26	地域色を活かした企画	広域連携による観光の推進 目的別情報発信 オリジナルグッズの作成・販売 沿線特産品の販売促進	自転車用観光地巡りマップ、オリジナル乗車券、駅周辺の新鮮野菜販売、沿線特産品の交流販売・コラボメニュー開発	えちぜん鉄道・沿線全市町				
	27	企画列車の運行	企画列車の運行	ハロウィーン列車(実施中)等の運行、観光地とのタイアップ企画、宿泊施設・観光施設と連携したサービス企画	えちぜん鉄道・沿線全市町				
修正	28		観光列車の導入	恐竜列車専用車両の導入	えちぜん鉄道・福井県				
	29	観光用コミュニティバスの運行	土日祝に観光用コミュニティバスを運行	勝山駅と勝山市内を巡る観光用コミュニティバスの運行	勝山市				
	30	企画バスの運行	鉄道と連携した企画バスの運行	福井駅・あわら湯のまち駅・勝山駅等の主要拠点駅を中心に観光地とタイアップした企画バスを運行	バス事業者・えちぜん鉄道				
修正	31	大規模イベント等での公共交通機関への誘導	祭事開催に合わせ、鉄道と連携した臨時バスの運行	三国花火、フェニックス祭り等での臨時バスや増便運行	バス事業者・えちぜん鉄道・沿線全市町				
	32	バス観光を中心としたフリーきっぷ	鉄道からバスに乗り換えて観光しやすいように、バスのフリーきっぷの利用促進	休日1日フリーキップ、海岸方面、東尋坊方面への2日間フリーキップ	バス事業者				
	33	自転車を活かしたサービスの充実	レンタサイクル、シェアサイクルの利用拡大	レンタサイクル、シェアサイクルのポート拡充	えちぜん鉄道・沿線全市町				
	34		サイクルトレインの利用促進	自転車関連イベントとのタイアップ	えちぜん鉄道・福井県・沿線全市町				
新	35	シームレスな移動の確保	沿線住民の利用促進	ふくい嶺北連携中核都市圏全体でのMaaSによる交通システムの構築	沿線全市町・えちぜん鉄道・バス事業者				
新	36	県外観光客の利用促進	新幹線開業に伴う利用促進	地域と連携した観光企画の充実 利用促進イベントの実施	えちぜん鉄道・沿線全市町・福井県				
I 情報発信の連携・強化									
	37	駅・車内での観光情報発信	主要駅に観光案内窓口設置	土日限定等で開設	沿線全市町・えちぜん鉄道				
	38		アテンダントによる車内での観光案内	観光シーズンに実施	えちぜん鉄道				
	39	駅・車内での地域情報・行政情報の提供	駅・車内でのポスターの掲出	イベント情報等を提供	沿線全市町・福井県				
	40		電車で設置されているモニターの利用	動画による情報発信	沿線全市町・福井県				
	41	沿線共同での情報発信	沿線市町と県が共同で沿線イベントや観光情報・地域情報等を発信	市町・県の広報媒体やホームページの活用	沿線全市町・福井県				
	42	双方向・ダイレクトコミュニケーションの促進	Twitter等の活用	乗り換え情報や駅周辺の観光情報を提供	えちぜん鉄道・沿線全市町				

4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通

J 乗る運動・利用促進									
	43	自治体による利用促進	通勤・出張時の電車利用	自治体職員の通勤及び出張時のえちぜん鉄道利用の強化	沿線全市町・福井県				
	44	カー・セーブ運動の推進	カー・セーブデー(毎週金曜日)の実施	運賃割引参加企業の拡大	福井県、沿線全市町・えちぜん鉄道・バス事業者				
	45	沿線事業所への利用働きかけ	沿線事業所等への電車利用の働きかけ	沿線事業所等へ電車通勤の働きかけ、社用移動時のえちぜん鉄道利用推進	えちぜん鉄道・沿線全市町				
修正	46	子どもが電車に乗るきっかけづくり	遠足等でのえちぜん鉄道利用推進	各学校へのルート・最寄施設等の情報提供	えちぜん鉄道・沿線全市町				
修正	47	通勤・通学でのえちぜん鉄道利用促進	通学、通勤利用の促進	えちぜん鉄道を利用した通勤・通学のPR・啓発等の強化、通勤・通学定期購入者への補助	沿線全市町				
修正	48	利用促進イベントの開催	主に地元利用者を対象とした利用促進イベントの開催	各種ツアー列車の実施、電車の利用PR、沿線特産品の販売等	えちぜん鉄道・沿線全市町				
修正	49	公共交通とまちづくりに向けた意識啓発と利用促進	公共交通とまちづくりへの意識啓発と利用促進	カーフリーデーやまちフェスなどの各種イベントに合わせた、公共交通とまちづくり事業の実施	市民団体・企業・えちぜん鉄道・バス事業者・沿線全市町・福井県				
	50	免許返納制度の推進	65歳以上の住民を対象とした自動車免許返納制度の推進	免許返納者にコミュニティバスの無料乗車券等を交付	沿線全市町				
新	51	商業施設、公共施設との連携による利用促進	えちぜん鉄道利用者に対する各種割引	えちぜん鉄道利用者に対する沿線の商業施設・公共施設やえちぜん鉄道の割引の検討	えちぜん鉄道・沿線全市町・民間事業者				
K 地域住民との連携									
修正	52	サポーターズクラブの強化	入会の推進 協賛企業の拡大 会員による利用の拡大	会員向け情報発信の強化(DM会報誌) 特典の拡大強化(セット券 協賛店サービス) 会員向け企画の実施	えちぜん鉄道(えちてつサポーターズクラブ) 沿線全市町				
修正	53	サポート会の活動	利用啓発活動 駅舎・沿線等の環境向上活動 乗って残す運動の推進	各種イベント・ツアーの実施	各サポート会・沿線全市町				
修正	54	駅を活用した住民主体のまちづくり活動の促進	えちぜん鉄道・福井県が相互乗入れする田原町駅において住民主体のまちづくり活動を展開する	田原町ミューズを活用した各種イベントの実施	福井市・沿線住民				
新	55	地域とのネットワークの構築	えちぜん鉄道の主催ツアーを活用した地域活性化	主催ツアー等での受け入れ先として依頼	えちぜん鉄道・沿線住民				

7 計画の数値目標

目指すべき公共交通の将来像及び、将来像実現のための4つの目標について、9指標とその目標値を設定します。

評価項目	数値目標	
	現状（H30年度）	将来目標（R8年度）
目指すべき公共交通の将来像の指標		
1 公共交通の利用者数	782万人/年	786万人/年
目指すべき公共交通の将来像を実現させるための実施目標の指標		
目標1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現		
2 相互乗入れによる利用者数	157,998人/年	158,000人/年
3 えちぜん鉄道利用者の満足度	70%	75%
目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現		
4 故障等部内原因による鉄道の遅延障害件数	8件/年	0件/年
目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現		
5 鉄道とバスが接続する主要拠点駅周辺（半径500m圏域）の人口の全人口に占める割合	3.7% （駅周辺人口：15,519人） （全人口：418,987人）	3.8% （駅周辺人口：15,500人） （全人口：396,363人）
6 鉄道とバスが接続する主要拠点駅周辺（半径100m圏域）の生活利便施設の立地件数	42施設以上	42施設以上
7 レンタサイクルの利用者数	13,647人/年	14,000人/年
8 企画列車の運行本数	38本/年	126本/年
目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現		
9 鉄道を使った遠足利用者数	165団体/年	165団体/年

8 計画の推進体制

この計画に掲載した利用促進の各施策をスパイラルアップし、地方自治体とえちぜん鉄道、他の公共交通事業者が協働し、社会情勢の変化に応じた評価・改善の仕組みを定めます。

PDCAサイクルの実行

本計画で掲げた目標を達成するために、コンパクトで住みやすいまちづくりに向けた新たな取組みの計画（Plan）を策定し、計画された取組みを継続的に実施する（Do）、実施した取組みについて検証及び評価し（Check）、問題点があれば見直しを検討する（Action）、このようなPDCAサイクルを実行していきます。継続的に連携協議会では、点検・評価の結果を受けて、見直しや修正が必要であれば、適時修正を行い計画期間中の推進を図ります。



PDCAサイクルの実施体制

PDCAサイクルの実行は、妥当性・有効性・効率性・持続性等の視点を踏まえ、えちぜん鉄道活性化連携協議会が、計画の進捗管理及び施策の評価・検証を行います。

実施体制としては、えちぜん鉄道活性化連携協議会のもとに「支援管理委員会」を設置します。支援管理委員会はプロセスの過程だけを評価・検証するのではなく、施策を実施し、どのような効果があったのか、なぜ成果が出なかったのか、何をすれば利用者のニーズに応えられるのか等、施策を具体的に評価・検証し連携協議会に報告します。

連携協議会は支援管理委員会から報告を受けた内容を踏まえ、計画全体の進捗管理及び施策の評価・検証を行います。



PDCAサイクルの実施体制のイメージ

9 パブリック・コメント募集の結果

(1) 募集期間

令和3年12月27日から令和4年1月11日まで

(2) 提出先

圏域内の全6市町(福井市、勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町、大野市)

(3) 意見の提出者数及び件数

4人(11件): 福井市1人(3件)、勝山市1人(6件)、永平寺町1人(1件)、大野市1人(1件)

(4) 提出された意見と意見に対する市町の考え方

(福井市)

	提出された意見	意見に対する市の考え方
1	主要拠点駅周辺人口が減少する中で、公共交通利用者が増加しているのは流動総人口が増加しているかまたは自家用車など他の移動手段から移行しているかと思うが、利用者数目標は人数だけではなく、流動人口に占める割合も目標にしたほうが対策の効果が出たかどうか判定しやすいと思います。	公共交通の利用者数は、新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度までは順調に増加していましたが、感染拡大により令和2年度以降は大幅に減少している状況です。 そのため、本計画期間において、減少した利用者数を回復させる必要があり、分かりやすい数値目標として、現行計画の数値目標を継続し、「公共交通の利用者数」としました。 一方、各種施策の効果を検証するには、流動人口を考慮することも重要であるため、評価・検証を行う際に参考とさせていただきます。
2	えち鉄とバスとの連携があちこちに表現されているが、並行在来線や福鉄との連携についての記述が少なくバランスが悪い。地域公共交通の連携計画としてはもっと記載すべきではないか。	並行在来線や福井鉄道との連携については、接続確保のための鉄道事業間のダイヤ調整や事業連携などの重要な事項を記載しています。 しかしながら、鉄道(並行在来線及び福井鉄道福武線)についてはバスのようにルートの変更ができないことや、えちぜん鉄道と福井鉄道福武線の相互乗入れを既に行っていることなどから、計画に記載しているボリュームがバスに比べて少なくなっています。
3	ICT化(キャッシュレス、MaaS)への対応においては、キャッシュレスによる運賃支払いのシームレス化が大前提になります。並行在来線を核としてえち鉄、福鉄、バス、コミバス、沿線商店等に共通で使える地域カード(イコカ互換)まで踏み込んでほしい。	キャッシュレス化については、運賃収受の効率化や停車時間の短縮化等につながる重要な施策だと考えています。 そのため、以前から、イコカなどの交通系ICカードを含めた様々な決済方法の検討を行っていますが、決済方法の技術開発が急速に進んでいることなどから、計画には具体的な記載はしていません。 シームレスな移動の確保が可能なMaaS(Mobility as a Service)の導入など、えちぜん鉄道交通圏において最もふさわしい決済手法、導入の在り方を今後も検討していきます。

(勝山市)

	提出された意見	意見に対する市の考え方
4	高齢者の交通事故防止のため、自動車免許の返納者へのタクシー・バス・電車の運賃を半額にして免許返納を促進して高齢者の事故防止・乗降客の増加に取り組んでほしい。	高齢者による交通事故を無くしていくため、車を利用しなくても日常生活に必要な移動ができる環境づくりや免許返納後の公共交通利用を促す支援策が必要と考えています。 そのため、勝山市では、65歳以上の運転免許返納者に対し、コミュニティバス及び京福バス(市内)の無料乗車券を交付していますが、えちぜん鉄道の運賃割引等についても、今後、検討していきます。

5	雪に強いえち鉄に取り組んでほしい。(大雪時の電車不通にならない除雪体制の確立・マニュアル作成・線路沿いの樹木伐採等)	信頼できる運行を支える鉄道施設づくりのため、大雪に備えた除雪体制の構築は重要と考えております。そのため、ハード面では、除雪車両や踏切消雪装置等について、今後も計画的に更新していきます。 また、ソフト面では、大雪の際には計画運休等を行い、集中的に除雪作業を行うなどして、運行を継続できる体制づくりを確立していきます。 さらに、SNS等を利用した情報発信に努め、運行情報案内等を迅速に発信するよう努めていきます。 線路沿いの樹木伐採等については、関係する県及び沿線市町とも情報共有し、降雪による倒木の可能性がある森林所有者と協議を行い、伐採・枝落ち作業を行っていきます。
6	災害に強い鉄道に取組んで欲しい。(志比堺駅付近・市荒川発電所から保田駅間・発坂から勝山駅間の山崩れ防止対策、のり面崩壊感知システムの設置やのり面転石落下感知システムの増設等)	近年、地震や豪雨等による大規模災害が多発しており、鉄道や道路への被害によって日常生活の移動が困難な状況が長期化するケースが発生しています。 そのため、災害に強い基盤整備を推進する必要があると考えており、ご指摘の箇所には、既に落石防護ネットなどを整備してきました。 今後は、ご指摘のセンサー等を活用した予防的設備設置を行っていく予定です。
7	線路の強化(電車の走行時の揺れ防止、安全快適性の確保のために全線の早期コンクリート枕木化・重軌条化等)	鉄道の安全・安定運行を行うため、設備の安全点検を徹底するとともに、老朽化した設備の計画的な更新が必要と考えています。 今後は計画的にコンクリート枕木化や重軌条化などを進めていきます。
8	勝山駅～福井駅間の所要時間の短縮。(ポイントの重軌条化及び高ポイント(10#ポイント以上)の採用、自動信号機の列車待合時間の短縮、列車の高速化、線路施設改良等)	電車の移動時間の短縮は、利便性向上につながる事項だと考えますが、現在は軌道の安全性向上、災害に対する備えなどを優先的に行っています。 ご意見を今後の参考とさせていただきます。
9	新幹線の開通を控え、福井県内のバス・電車(新鉄道(平行在来線)、福井鉄道、えち鉄)の一日フリー切符の発行の検討等。	北陸新幹線福井開業により、観光客の増加が期待されており、鉄道やバス等の公共交通を乗り継いで観光できる交通環境が求められています。 鉄道やバス等の公共交通を利用した観光プランを充実させるため、各交通事業者間の一日フリー切符の発行等も検討していきます。

(永平寺町)

	提出された意見	意見に対する町の考え方
10	55施策を実行するための予算はどのように考えているのか。今後、提示されるのか。	素案の23ページから26ページの実施主体の欄に記載している者が負担又は支援します。 なお、素案の1ページに記載しているとおり、平成24年度以降は、えちぜん鉄道を地域の発展を支える「生活関連社会資本」として位置付け、県は鉄道運行に必要な資産取得等と安全な鉄道運行に必要な設備投資を支援し、沿線市町は、社会資本の維持に必要な経費を支援することで、えちぜん鉄道の経営者としての自立性を高めることを目指しておりますので、県及び沿線市町も支援等を行います。 県及び沿線市町の支援額については、次回のえちぜん鉄道活性化連携協議会で報告します。

(大野市)

	提出された意見	意見に対する市の考え方
11	病院にかかることが歳と共に大変になるが、人口減少にともない、不安になってくる。交通規則を分かりやすく、公民館などでレクチャーして下さると有難い。	公共交通機関の利用方法が分からないという声にお応えするため、利用促進策として、利用したい停留所と時刻表を記載した利用者専用の「マイ時刻表」を作成しておりますので、ご利用ください。 また、大野市生涯学習センターの事業として、市職員が講師として皆さんのもとにお伺いする出前講座「わく湧くお届け講座」を実施しています。講座メニューとして、「バス・JR越美北線の乗り方教室」や「高齢者の交通安全教室」がありますので、ご検討いただければ幸いです。